

地方
発

山村から見るTPP

沢畑 亨

村おこし施設「愛林館」館長



……。棚田を巡る苦勞が分らない人に「きれいな」と言われても素直に喜べない。

さらに、TPPが私たちの暮らしに及ぼす影響は農業分野だけではない。労働力市場や政府調達への自由化の可能性も潜んでいる。だが、移民労働者と幸せな社会を作った国がどこにあるのか？ 政府調達の自由化で公共事業を巡る競争が激化すれば地元業者は太刀打ちできず、地方は衰退するばかりだろう。政府はこうした不安に答えないうまま、TPP参加に突き進んでい

棚田の恵み 荒廃の危機

1964年、東京五輪の年に木材貿易が自由化された。50年近くたち、林業は苦境にある。私が暮らす熊本県水俣市の久木野地区は、面積のほとんどを山林が占める上流社会(川の上流に広がる社会)だ。ここでも熱心に育てた森が放置され、荒れた山が増え

もうろん林業衰退の原因は

国際競争だけではない。市場ニーズに対応できなかった木材業界の怠慢もあろう。経営努力が足りない産業が市場から退出するのは仕方ない。

だが、林業や農業は木材や農産物の生産だけが役割ではないはずだ。森や棚田は水をため、土や酸欠、景観を作る。こうした恵みが「のさる」(授かる)のだ。TPP推進論のように「もうかる」だけを基準に価値を判断すべきではない。



久木野には産業としての

「農業」はもはや存在しないと言っている。農業収入では食べていけない、年金暮らしのお年寄りや兼業の「棚田サラリーマン」が平たん地より手間のかかる棚田の維持を担っている。

勤めの合間を縫い、土日をつぶして農作業するより、残

環太平洋パートナーシップ協定(TPP)

100%撤廃する。現在、米国、オーストラリア、ベトナム、ペルー、マレーシアの5カ国を加えた9カ国による新たなTPP締結に向けて交渉中で11月の合意を目指している。農業だけでなくサービス、投資、政府調達などさまざまな分野が対象となる。

唯一有利になるのは輸出企業だ。その利益が給料や雇用確保に反映されるとは思えない。企業の自己資本比率が戦後最高を更新しても、私たちの生活が好転した実感はなかった。